



大仏のポーズなどは古くから決められているが、表情は、仏師のデザインで微妙に異なるという

「設計を担当した仏師は、いくつかのパーツに分けて铸込めるようにはしていたのですが、そのパーツですら大き過ぎました」  
大き過ぎるとなにか問題になるのか。  
「铸型が大きいと、細かなデザインを繊細に表現できなくなる恐れがあるのです。使用した青銅は、銅を多く含み、铸込みも接合もしやすい合金です。それでも大きな铸型に流し込むと、途中で冷めて、複雑な形状をした先端まで行き届かないことも。そこで私たちは、铸込みしやすいように図面のパーツを2〜3mぐらいに、約200個のパーツに分割したのです。」

工場で事前に仮組みし、現場での組立てをスムーズに



分割したパーツの総重量は約65t! トラック19台で10日間かけて搬送した



すべてのパーツができ上がると、工場で仮組みを行いパーツのひずみを矯正する



工場で塗装したパーツと、現場で組立て溶接し終えてから塗装するものとに分けることで、仕上りはより美しくなる



最初は、大仏の頭部に頭髮螺髪(らぼつ)がまだすべて設置されていないカッパのようなお姿はなんとお寂しい限り

銅合金作品例

- 建築物**
- 東北芸術工科大学 / 能舞台「伝統館」屋根鬼瓦 (山形県山形市)
  - 東京歌舞伎座 / 飾金物(六葉・唄金物) (東京都中央区)
  - 東京歌舞伎座 / 正面丸柱用根巻金物一式 (東京都中央区)
  - 寺山修司記念館 / 記念館オブジェ・モニュメント (青森県三沢市)
  - 昭和天皇陵宮建工事 / 正面門扉 (東京都八王子市)
  - 香淳皇后陵宮建工事 / 正面門扉 (東京都八王子市)

- 仏具**
- 札幌大昌寺 / 札幌薬師大仏座像(仏身8.4m、総高11.4m) (北海道札幌市)
  - 蓮華院誕生寺 / 五重塔相輪(10m) (熊本県玉名市)
  - 塩船観音寺 / 白衣観音立像(仏身10m、総高13.3m) (東京都青梅市)
  - 宝光寺 / 鹿野大仏座像(仏身12m、総高15m) (東京都日の出町)
  - 藻原寺 / 日蓮聖人大銅像(仏身20m) (千葉県茂原市) 造営中

来ることもありません。大きな鐘だと、溶鉱炉に入りきれないので切断しなければなりません。刃物で切つていくと、その音が反響して物悲しく鐘が泣くんですよ」  
いつの時代に造られた銅製鑄物にも、依頼した人、造った人、利用した人、それぞれの歴史と思想がある。それを守り、引き継ぎ、愛でる。どんなに人の価値観が変化しても、そんな日本人の心は失わずにいたい。

鑄物というものは、铸型に金属を流し込んでみるまで、成功するか否かわかりません。铸込みの際には、もの凄いや力が铸型にかかるため、铸型が開かないように神経を尖らせて作業します。少しでも開いてしまうと、そこから割れなどのトラブルが発生することもあるからです」  
こうして全パーツができ上がると、工場ですべて仮組みを行う。  
「铸型には、ひずみが発生することがあり、その微妙な矯正を工場ですべてに行い、現場でぴったりと組立てられるようにしておきます。これを怠ると現場での組立て

に1カ月、2カ月と遅れが出るのです。ここでも铸造から携わった7名の職人の技とセンス、そして強いチームワークが問われますね。表面は、耐久性を考慮し、ウレタン系塗料で深緑色に塗装しています」  
**現場で組立てを終えた翌朝 大仏自ら発する音が!?**  
鑄物の厚みは15〜18mm、全体重量は約65tにも。10tトラック2台、4tトラック17台を使い、10日間かけて現場へ運び、7名の職人が約50日かけて組立てを行った。パーツの溶接では、継目がわからないように

美しく仕上げていく職人技も求められる。「やっと完成し、足場を撤去して引き上げようとした翌朝、誰もいないはずの大仏周辺から、ハンマーで叩くような音が……。実は、溶接した金属が朝日を浴びて膨張することで発生する現場では時として起こる現象です。でもこの不思議な音を聞くと、みんなで心を込めて造った大仏には魂が宿っている、そんな気がしてきます。無事完成したという安堵感と達成感に心が満たされ、最高の喜びを感じます。昨今では、お寺の鐘の音が騒音だと苦情が出てつき鐘を処分してほしいと、依頼が来ることもありません。



4月11日から一般公開された塩澤山宝光寺の鹿野大仏。「西東京を元気にする目玉になれば」と八坂良秀住職

山形県銅町・鑄物町  
鎌倉を超え、わが国2番目の  
巨大な銅製座仏を鑄造

「鎌倉の大仏を超える12mの高さで、奈良東大寺に次ぐ、わが国2番目の大きさの座仏に」と話題を集める東京都西多摩郡日の出町にある塩澤山宝光寺(えんたくさんほうこうじ)の「鹿野(ろくや)大仏」。山の高台にある大仏に続く坂道を汗を拭きふき登り、威厳と優しさに満ちたご尊顔を拝見。さて、耳の大きさを測り、約2mもあるこの巨大な銅製鑄物を、どうやって造り上げたのか――

「銅町」という名の町の歴史に、思いを馳せる

大仏を製作したのは、株式会社鈴木鑄造所代表取締役鈴木巖氏。本社が山形市銅町、工場は鑄物町と、まさに「山形鑄物」の会社らしいなともうれしくなる町名である。  
山形鑄物の歴史は、900年以上前の平安時代、源頼義の奥羽平定遠征時に従軍した鑄物師がこの地の馬見ヶ崎川の砂と土質が鑄物に適していることを発見したことに始まる。町名の由来は、江戸時代に最上義光が城下町再編で鑄物職人を1カ所に集め誕生したのが銅町。戦後の高度成長期に機械鑄物部品を造る会社が急増し、銅町では手狭となった多くの鑄物会社が移転し生まれたのが鑄物町だ。  
銅町を散策すると、銅像や山形鑄物の



株式会社鈴木鑄造所 工場長 佐藤 正七生氏



株式会社鈴木鑄造所 デザイナー 鈴木 千代子氏

巨大過ぎて、約2000パーツに分けても一つが2〜3mに!

「当社は、創業者の鈴木綱が大正8年に小さな鑄物工場を立ち上げたのが始まりであり、以来山形鑄物の伝統を守り、数多くの仏像、仏具を造ってきました。銅とは古くからのおつきあいです。最近はいままで培ってきた鑄造技術に新しい感性を吹き込み、公共の場に設置されるモニュメントや建築の装飾金物なども製作しています」と(株)鈴木鑄造所工場長佐藤正七生氏、デザイナー鈴木千代子氏。  
完成まで約3年を費やした鹿野大仏。この巨大さだと特別な苦労もあったのでは。



街路を飾るキューポラの銅製モニュメント(銅町)



山形鑄物についてじっくりと学ぶなら「山形市産業歴史館」へ(鑄物町)

